

このプログラムは、指定したウィンドウの位置、大きさ等、ウィンドウについての各種情報を表示します。
マウス ポインタのある位置のウィンドウの情報を逐次表示したり、特定のウィンドウの情報を表示したまま保持したりできます。
また、ウィンドウを移動／サイズ変更するとき、ウィンドウの位置と大きさだけをツールチップに似た小さなウィンドウに表示する機能もあります。

配布ファイル一覧

WININFO.DLL ウィンドウ情報表示ツール プログラム
WININFO.INF セットアップ情報ファイル
WININFO.PDF プログラムの使用方法 PDF 形式
SP_WININ.EXE ... プログラムの使用方法 自己印刷形式
README.TXT この作品についての説明
LICENSE.TXT ご利用条件

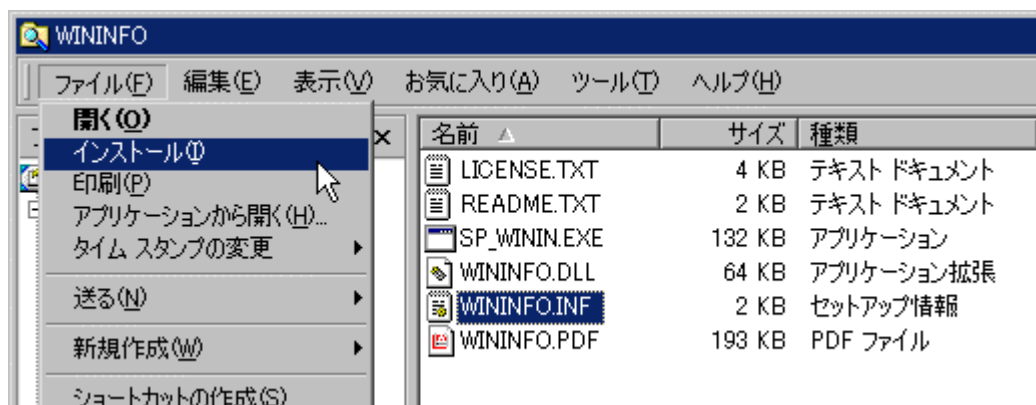
動作環境

このプログラムは Windows 95/98, Windows NT 4.0/2000 および Windows XP 上で動作します。
他のバージョンの OS 上での動作は未確認です。

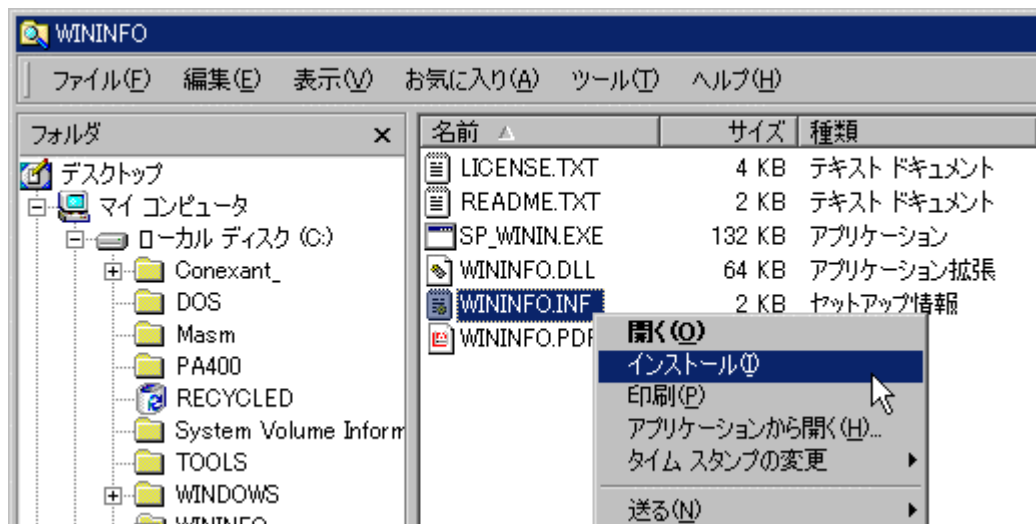
以降の説明は Windows 2000 の場合について行いますが、他の OS の場合も、画面のデザインが異なるだけで機能的には同じです。

インストール

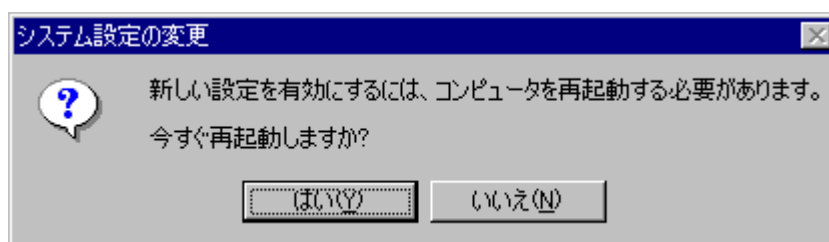
エクスプローラの画面でセットアップ情報ファイル(WININFO.INF)を選択し、[ファイル]メニューから[インストール]を選択します。
または、セットアップ情報ファイルを右クリックしてショートカット メニューを表示し、そこから[インストール]を選択します。



または



確認メッセージが表示されるので、[はい]ボタンを押してシステムを再起動します。



OS のバージョンの違い等によりこのメッセージが出ない場合もあります。その場合は手動で再起動してください。

このプログラムはレジストリに以下の項目を作成します。

(1) プログラムの起動設定

システム起動時にシステムに常駐するために以下の項目を作成します。

キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run
 値の名前 : Window Information
 値のデータ : rundll32.exe %11%\wininfo.dll,Entry

(2) プログラムの動作についての設定

プログラムの動作についての設定を保存するため、以下のキーとその中にいくつかの値を作成します。

HKEY_CURRENT_USER\Software\Mabuchi Yoshihiko\Wininfo

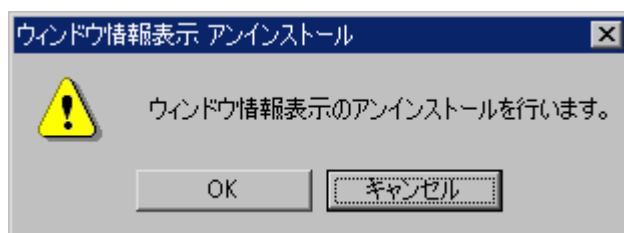
(Windows NT 系の OS の場合、インストールには管理者権限が必要です。)

アンインストール

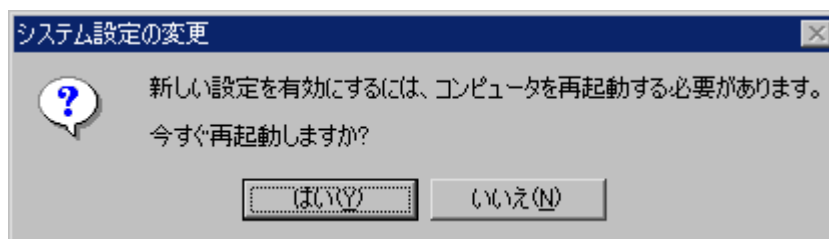
[コントロール パネル]の[アプリケーションの追加と削除](OS のバージョンによっては[プログラムの追加と削除])を起動し、[プログラムの変更と削除](OS のバージョンによっては[セットアップと削除], [インストールと削除])ページを表示します。アプリケーションの一覧から“ウィンドウ情報表示 X.XX”(X.XX はバージョン番号)を選択し、[変更/削除](OS のバージョンによっては[追加と削除], [変更と削除])ボタンを押します。



確認メッセージが表示されるので、[OK]ボタンを押します。



確認メッセージが表示されるので、[はい]ボタンを押してシステムを再起動します。



アンインストール時にはこのプログラムが作成したレジストリの項目も自動的に削除しますが、何らかの理由によりレジストリの項目が削除されずに残った場合は、手動で以下の項目を削除してください。

(1) プログラムの起動設定

キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run
値の名前 : Window Information

(2) プログラムの動作についての設定

以下のキーとそこにある値すべて

HKEY_CURRENT_USER\Software\Mabuchi Yoshihiko\Wininfo

(Windows NT 系の OS の場合、アンインストールには管理者権限が必要です。)

使用方法

このプログラムでは以下のふたつの方法でウィンドウの情報を表示します。

詳細表示

指定したウィンドウについての詳細な情報を次のようなウィンドウに表示します。

```
ウィンドウ ハンドル: 00020088
テキスト: ローカル ディスク (C:)
ウィンドウ領域: (120,120)-(760,600) 640x480
クライアント領域: (4,23)-(636,476) 632x453
スタイル: 16CF0000 拡張スタイル: 00000100
親ウィンドウ: 00000000 最初の子ウィンドウ: 0002009C
最初のウィンドウ: 000200C0 最後のウィンドウ: 0001006C
次のウィンドウ: 000200D2 前のウィンドウ: 000400C2
オーナー ウィンドウ: 00000000 メニュー ハンドル: 00040119
ユーザーデータ: 0 (00000000)
クラス名: ExploreWClass
クラス アトム: C0D5 クラス スタイル: 00002000
拡張ウィンドウ メモリ: 4 バイト
拡張クラス メモリ: 0 バイト
ウィンドウ Proc: 00000000 クラス Proc: FFFF02A9
背景フラグ: 00000006 (WINDOW)
カーソル: 0001001F (SIZEWE)
アイコン: 0001010F 小さいアイコン: 00010117
メニュー名:
モジュール ハンドル: 76DC0000 インスタンス ハンドル: 76DC0000
プロセス ID: 00000410 スレッド ID: 00000310
モジュール ファイル: Explorer.EXE
```

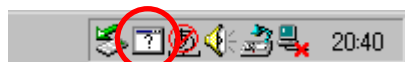
ドラッグ時表示

ウィンドウをドラッグして移動またはサイズ変更を行うとき、ウィンドウの位置と大きさをツールチップに似た小さなウィンドウに表示します。

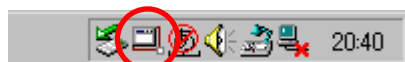


システムが起動するとシステムトレイにこのプログラムのアイコンが表示されます。

ドラッグ時表示が無効のときのアイコン



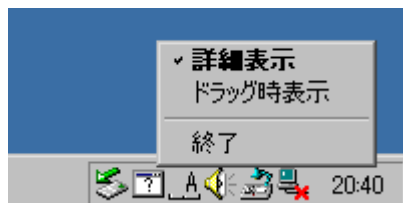
ドラッグ時表示が有効のときのアイコン



それぞれの表示を行うかどうかは、アイコンのショートカットメニュー（右クリックメニュー）で指定します。インストール後の初期状態では、どちらの表示も行わない設定になっています。



ショートカットメニューから使用したい表示の種類を選択すると、その表示が有効になります。表示を無効にするときは、再度ショートカットメニューから該当の表示の種類を選択します。現在有効になっている表示については、ショートカットメニューの項目にチェックマークが付きます。



「ドラッグ時表示」の有効／無効に伴ってアイコンが前述のように変わるので、現在「ドラッグ時表示」が有効かどうかはアイコンを見れば判ります。

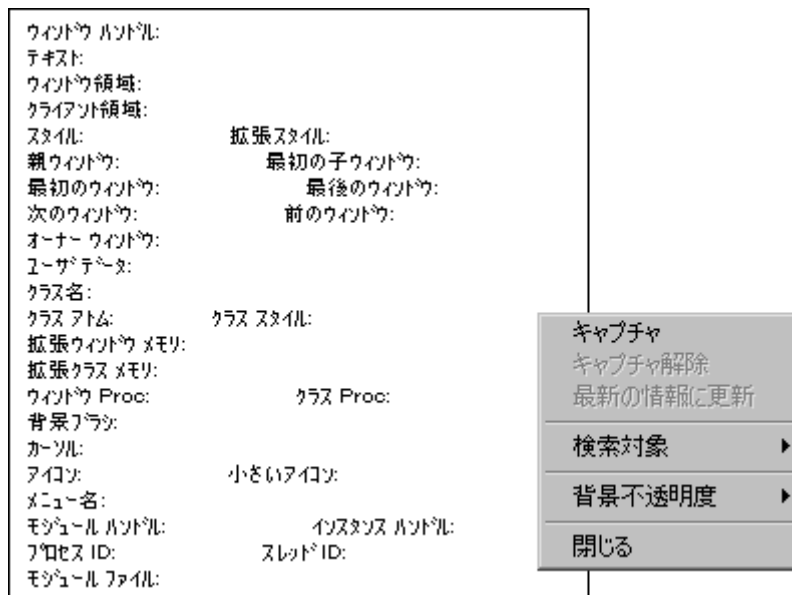
詳細表示

```
ウィンドウ ハンドル: 00020088
テキスト: ローカル ディスク (C:)
ウィンドウ領域: (120,120)-(760,600) 640x480
クライアント領域: (4,23)-(636,476) 632x453
スタイル: 16CF0000 拡張スタイル: 00000100
親ウィンドウ: 00000000 最初の子ウィンドウ: 0002009C
最初のウィンドウ: 000200C0 最後のウィンドウ: 0001006C
次のウィンドウ: 000200D2 前のウィンドウ: 000400C2
オーナー ウィンドウ: 00000000 メニュー ハンドル: 00040119
ユーザデータ: 0 (00000000)
クラス名: ExploreWClass
クラス アトム: C0D5 クラス スタイル: 00002000
拡張ウィンドウ メモリ: 4 バイト
拡張クラス メモリ: 0 バイト
ウィンドウ Proc: 00000000 クラス Proc: FFFF02A9
背景フラグ: 00000006 (WINDOW)
カーソル: 0001001F (SIZEWE)
アイコン: 0001010F 小さいアイコン: 00010117
メニュー名:
モジュール ハンドル: 76DC0000 インスタンス ハンドル: 76DC0000
プロセス ID: 00000410 スレッド ID: 00000310
モジュール ファイル: Explorer.EXE
```

詳細表示では、通常はマウス ポインタのある位置のウィンドウの情報を表示しますが、特定のウィンドウの情報を表示したまま保持することもできます。

詳細表示画面はドラッグして移動することができます。詳細表示画面上の任意の場所でマウスの左ボタンを押してドラッグしてください。

詳細表示画面では、ショートカットメニュー（右クリックメニュー）で以下の操作を行えます。



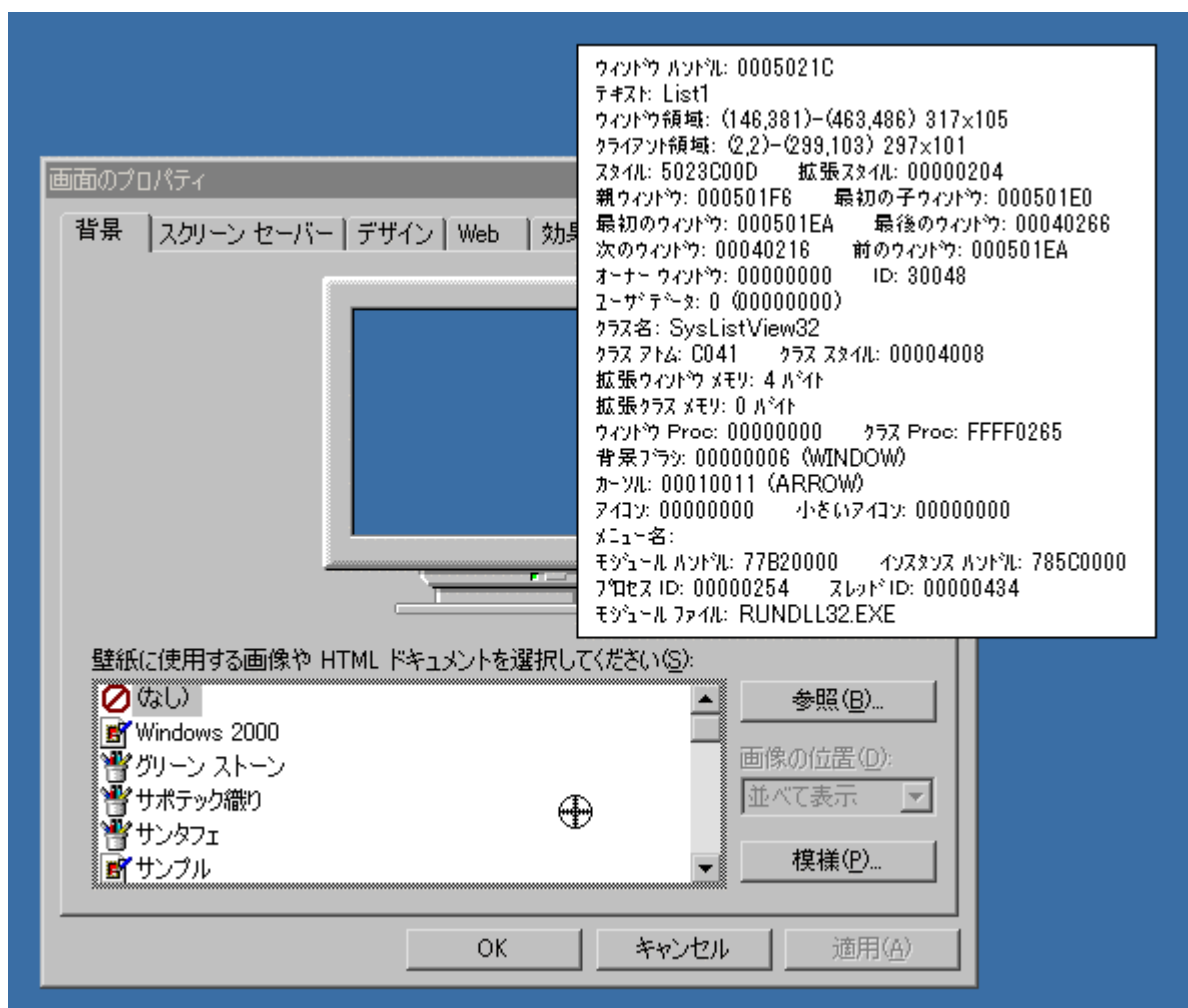
● キャプチャ

特定のウィンドウの情報を表示したまま保持することを「キャプチャ」と呼ぶことにします。

[キャプチャ]を選択するとキャプチャ対象ウィンドウを指定するモードになり、マウス カーソルが次のような形状になります。



また、現在情報が表示されているウィンドウの領域が網掛けの枠で示されます。



キャプチャしたいウィンドウにマウス ポインタを持って行き左クリックします。表示が固定され、マウス ポインタを他の場所に移動しても指定したウィンドウの情報を表示し続けます。

キャプチャを行うと詳細表示ウィンドウの枠の色が赤に変わり、キャプチャ中であることを示します。

キャプチャ対象ウィンドウの指定を中止したい場合は、任意の箇所でも右クリックするか Esc キーを押してください。

- キャプチャ解除

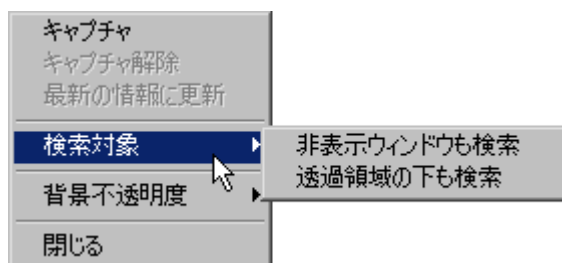
[キャプチャ解除]を選択すると、キャプチャ状態を解除し通常の表示に戻ります。

一度キャプチャを行った後続けて別のウィンドウをキャプチャするときは、[キャプチャ解除]を選択する必要はありません。そのまま[キャプチャ]を選択すれば、以前のキャプチャ状態は自動的に解除されます。

- 最新の情報に更新

キャプチャした後に対象ウィンドウの情報が変化しても、表示は自動的に変わりません。[最新の情報に更新]を選択すると、対象ウィンドウの最新の状態を再表示します。

- 検索対象



詳細表示ではマウス ポインタのある位置のウィンドウの情報を表示するため、ウィンドウが重なっている箇所ではそのうちどれかひとつのウィンドウが対象になります。

通常は非表示ウィンドウを除くウィンドウのうち最も上にあるものが対象になりますが、この項目でその動作を変更できます。

- 非表示ウィンドウも検索

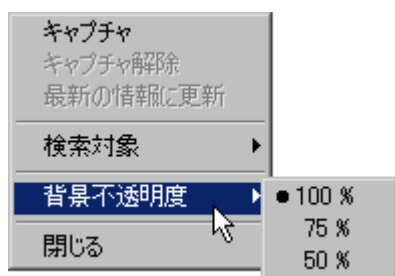
この項目を選択すると、非表示ウィンドウも情報表示の対象に含めます。したがって、マウス ポインタの位置で最も上にあるウィンドウが非表示ウィンドウである場合、そのウィンドウについての情報が表示されます。

- 透過領域の下も検索

この項目を選択すると、透過領域の下にウィンドウがある場合下にあるウィンドウについての情報が表示されます。

ここで言う「透過領域」とは、WM_NCHITTEST メッセージに対して HTTRANSPARENT を返す領域のことです。これはマウス メッセージが下に透過する領域であって、必ずしも下が透けて見えるとは限りませんが、下が透けて見えるウィンドウでは同時に WM_NCHITTEST メッセージに対して HTTRANSPARENT を返すようにしている場合が多くあります。典型的な例はグループ ボックス コントロールです。グループ ボックス コントロールは、枠以外の部分に何も描画しないので下が透けて見えます。同時にその部分では WM_NCHITTEST メッセージに対して HTTRANSPARENT を返すので、下にあるボタン等をクリックできます。そのような場合、下にあるウィンドウが見えていても実際にはその上にグループ ボックス コントロールのウィンドウがあるため、通常の表示では下にあるウィンドウの情報を表示することができません。この項目を選択すると、そのような場合に下にあるウィンドウの情報が表示されるようになります。

- 背景不透明度 (Windows 2000/XP のみ)



Windows 2000/XP では背景を半透明にできます。背景の不透明度を 100 % (不透明) / 75 % / 50 % の中から選択します。Windows 2000/XP 以外ではこの項目は表示されません。

- 閉じる

詳細表示を無効にします。

システムトレイアイコンのショートカットメニューで[詳細表示]を選択するのと同じです。

詳細表示画面に表示する各項目の内容は以下のとおりです。

項 目	内 容
ウィンドウ ハンドル	ウィンドウ ハンドル (16 進表示)
テキスト	ウィンドウのテキスト
ウィンドウ領域	<p>ウィンドウ領域の位置と大きさが次の形式で表示されます。</p> <p>$(X1, Y1)-(X2, Y2) W \times H$</p> <p>$X1$: ウィンドウの左上の X 座標 $Y1$: ウィンドウの左上の Y 座標 $X2$: ウィンドウの右下の X 座標 $Y2$: ウィンドウの右下の Y 座標 W : ウィンドウの幅 H : ウィンドウの高さ</p> <p>(座標はスクリーン座標系)</p>
クライアント領域	<p>クライアント領域の位置と大きさが次の形式で表示されます。</p> <p>$(X1, Y1)-(X2, Y2) W \times H$</p> <p>$X1$: クライアント領域の左上の X 座標 $Y1$: クライアント領域の左上の Y 座標 $X2$: クライアント領域の右下の X 座標 $Y2$: クライアント領域の右下の Y 座標 W : クライアント領域の幅 H : クライアント領域の高さ</p> <p>座標はウィンドウ領域の左上からの相対座標です。 この座標は Windows API の <code>GetClientRect()</code> で取得される矩形の座標とは異なります。 <code>GetClientRect()</code> で取得される矩形の座標は $(0,0)-(W,H)$ になります。</p>
スタイル	ウィンドウ スタイル (16 進表示)
拡張スタイル	拡張ウィンドウ スタイル (16 進表示)
親ウィンドウ	対象ウィンドウの親ウィンドウのウィンドウ ハンドル (16 進表示)
最初の子ウィンドウ	対象ウィンドウの子ウィンドウのうち Z オーダーが一番上のもののウィンドウ ハンドル (16 進表示)
最初のウィンドウ	<p>対象ウィンドウと同じ種類のウィンドウで Z オーダーが一番上のもののウィンドウ ハンドル (16 進表示)</p> <p>Windows API の <code>GetWindow()</code> で <code>GW_HWNDFIRST</code> を指定したときに返されるウィンドウ ハンドルです。</p>
最後のウィンドウ	<p>対象ウィンドウと同じ種類のウィンドウで Z オーダーが一番下のもののウィンドウ ハンドル (16 進表示)</p> <p>Windows API の <code>GetWindow()</code> で <code>GW_HWNDLAST</code> を指定したときに返されるウィンドウ ハンドルです。</p>
次のウィンドウ	<p>Z オーダーが対象ウィンドウの次であるウィンドウのウィンドウ ハンドル (16 進表示)</p> <p>Windows API の <code>GetWindow()</code> で <code>GW_HWNDNEXT</code> を指定したときに返されるウィンドウ ハンドルです。</p>

前のウィンドウ	Z オーダーが対象ウィンドウの前であるウィンドウのウィンドウ ハンドル(16 進表示) Windows API の GetWindow() で GW_HWNDPREV を指定したときに返されるウィンドウ ハンドルです。
オーナー ウィンドウ	対象ウィンドウのオーナー ウィンドウのウィンドウ ハンドル(16 進表示)
メニュー ハンドル	ウィンドウに割り当てられているメニューのハンドル(16 進表示) 対象ウィンドウが子ウィンドウのときは、この項目は表示されません。
ID	ウィンドウの ID 対象ウィンドウが子ウィンドウでないときは、この項目は表示されません。
ユーザ データ	ユーザ データ(ウィンドウに関連付けられたアプリケーション定義の値)が 10 進と 16 進で表示されます。 かっこの前が 10 進表示でかっこ内が 16 進表示です。
クラス名	ウィンドウが属するクラスの名前
クラス アトム	ウィンドウが属するクラスを識別するアトム(16 進表示)
クラス スタイル	ウィンドウが属するクラスのクラス スタイル(16 進表示)
拡張ウィンドウ メモリ	拡張ウィンドウ メモリの大きさ(バイト数)
拡張クラス メモリ	ウィンドウが属するクラスの拡張クラス メモリの大きさ(バイト数)
ウィンドウ Proc	ウィンドウ プロシージャのアドレス(16 進表示) Windows API の GetWindowLong() で GWL_WNDPROC を指定したときに返される値です。
クラス Proc	ウィンドウが属するクラスのウィンドウ プロシージャのアドレス(16 進表示) Windows API の GetClassLong() で GCL_WNDPROC を指定したときに返される値です。
背景ブラシ	ウィンドウが属するクラスの背景ブラシのハンドル(16 進表示) 背景ブラシがシステム カラーのインデックスで指定されている場合、かっこ内にシステム カラーを表す文字列が表示されます。 この文字列は Windows API の GetSysColor() などで使われる定数 COLOR_XXXX の XXXX の部分と同じです。
カーソル	ウィンドウが属するクラスのマウス カーソルのハンドル(16 進表示) カーソルがシステムであらかじめ定義されているものの場合、かっこ内にカーソルの種類を表す文字列が表示されます。 この文字列は Windows API の LoadCursor() などで使われる定数 IDC_XXXX の XXXX の部分と同じです。
アイコン	ウィンドウが属するクラスのアイコンのハンドル(16 進表示)
小さいアイコン	ウィンドウが属するクラスの小さいアイコンのハンドル(16 進表示)
メニュー名	ウィンドウが属するクラスのメニューの名前または ID ID の場合は “#1234” のような形式で表示されます。
モジュール ハンドル	ウィンドウが属するクラスを登録したモジュールのハンドル(16 進表示)
インスタンス ハンドル	アプリケーションのインスタンス ハンドル(16 進表示)
プロセス ID	ウィンドウを作成したプロセスの ID(16 進表示)
スレッド ID	ウィンドウを作成したスレッドの ID(16 進表示)
モジュール ファイル	ウィンドウを作成したプロセスの実行ファイルの名前

ドラッグ時表示

ドラッグによりウィンドウの移動またはサイズ変更を開始すると、マウス ポインタの付近に小さなウィンドウが表示され、そこにドラッグ中のウィンドウの位置と大きさが次の形式で表示されます。

(X,Y) X : ウィンドウの左上の X 座標, Y : ウィンドウの左上の Y 座標
#xH # : ウィンドウの幅, H : ウィンドウの高さ



情報表示ウィンドウの位置と大きさは大抵の場合ドラッグに伴って変化しますが、以下の条件のときはドラッグを開始したときに表示された位置と大きさに固定されたままになります。その場合大きさについては、表示内容が開始時より大きくなっても表示できるよう、あらかじめ余裕を持った大きさで表示されます。

ドラッグ時情報表示ウィンドウが固定される条件

OS が Windows 95 系の場合で、コントロール パネルの画面のプロパティで[ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する]が選択されていない場合